

多職種連携研修会に参加しました

大垣院長が、12月16日(火)若松区医師会が開催した『令和7年度第1回 若松区多職種連携研修会「一緒に考えてみませんか ～急変時でも本人の意志を尊重するために支援者ができること～」』に参加しました。

当日は多職種が集まり、グループに分かれ、急変時の場面における困りごとや現在取り組んでいること、本人の意志を尊重するために何ができるかについて、さまざまな意見交換が行われました。

意見交換の中では、本人は自宅で過ごしたいと思っていなくても、その意に反して救急搬送されてしまうケースが多いことが共有されました。

その要因として、ご家族が動揺してしまうこと、本人は方針を決めていても急変時に思いを伝えられず、周囲もその意志を把握していないこと、また身寄りがなく判断できる人がいないことが挙げられました。

こうした状況を踏まえ、在宅で過ごすことを希望される患者さんの思いをどのように実現していくかについて話し合いが行われ、

- ・状態が悪化した際の方針を「見える化」する
 - ・カルテに明確に記録を残す
 - ・方針を書いた紙を施設や自宅に掲示する
- といった取り組みが提案されました。

一方で、方針を決定するためには医師や看護師が日頃から信用・信頼されていなければ、医療者側に判断を託してもらうことは難しいとの意見もありました。信用・信頼を得るためにも、医療者が接遇(言葉づかい、身だしなみ、態度)に気を配り、おもてなしの心(ホスピタリティ)を持って日々の診療ひとつひとつを大切に積み重ねていく必要があると、改めて感じる機会となりました。

当院では今後も、スタッフ一同患者さんに寄り添い、その思いを叶えるサポートに努めてまいります。

この度は、貴重な研修会に参加させていただき、誠にありがとうございました。

